

第 42 回住総研シンポジウム
東日本大震災復興支援事業

受け継 がれる 住まい

vol.1

2015 年 7 月 17 日 (金)

13:00 ~ 16:30

学士会館 210 号室

東京都千代田区神田錦町 3-28

参加費 一般 1,000 円 学生 500 円

参加費はすべて東日本大震災復興義援金として
被災地にお送りします。

主催：一般財団法人 住総研

基調講演 / コーディネーター：内田 青蔵 (神奈川大学)

司 会：祐成 保志 (東京大学)

講 演：木村 至聖 (甲南女子大学)

後藤 治 (工学院大学)

椎原 晶子 (晶地域文化研究所)

パネリスト：光井 渉 (東京藝術大学)

今日、歴史的建造物の保存運動が行われることは当たり前ようになって来た。文化財制度も、1996年に登録文化財制度が導入され、それまでの国宝・重要文化財という国家的視野や学術的価値によるものから、地域にとって馴染み深い文化財を貴重なものとして保護していく姿勢が確立されてきた。そして、行政による都市計画分野では、こうした歴史的建造物を壊すのではなく、ランドマークなどの重要な核として街づくりや地域づくりを展開する手法を採用し始めた。それでも、現実的には多くの建物が壊され、捨てられている。中には貴重で文化財的価値のある建物であっても、あるいは、所有者が維持したいと願っても、相続問題や維持コストの負担問題などから、その願いが叶わないことの方が多いのが現状である。

そこで、今年度の住総研シンポジウムは「受け継がれる住まい」というテーマで、なぜ、われわれは、住まいや生活、あるいは住環境や地域社会などを継承しなければならないのか、どう継承していくべきか、その継承のシステムは？という素朴で基本的な問題を再考する。「受け継ぐこと」を当たり前のこととし、また、受け継ぐシステムのもとで維持を可能とすることのできる新たな段階へと導きたいと考えたからである。この「受け継ぐこと」をテーマに議論するために、こうした問題に深く係り、オピニオンリーダーや実践者として活躍されている方々をお招きし、現実問題の所在やその解決策を明らかにするとともに未来に向けたメッセージを作成したいと考えている。

さて、第1回目は、「なぜ、われわれは過去の住まいや生活を継承しようとするのか？」について、広く議論したいと考えている。言い換えれば、この「継承」の意味・意義を、「継承」すべきか否かも含め、3名のパネリストのご意見をもとに、考えてみたいと思う。

(内田 青蔵 神奈川大学教授 受け継がれる住まい調査研究委員会委員長)

受け継 がれる 住まい

vol.1

内田 青蔵

神奈川県工学部建築学科 教授

1953年秋田県生まれ。75年神奈川県工学部建築学科卒業、1983年東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程満期退学。工学博士。2009年より現職。1994年日本建築学会奨励賞(論文)受賞、2004年日本生活学会今和次郎賞受賞。2012年日本生活文化史学会賞受賞。専門は日本近代住宅史。2011年より住総研研究運営委員会委員。主な著書に『お屋敷散歩』河出書房新社(2011)、『図説・近代日本住宅史 新版』鹿島出版会(2008)*共著、『「間取り」で楽しむ住宅読本』光文社(2005)、『同潤会に学べ』王国社(2004)など、また、監修として『近代日本生活基本文献集』日本図書センター(2012)など。

祐成 保志

東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

1974年大阪府生まれ。東京大学文学部卒業。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(社会学)。札幌学院大学社会情報学部助教授、信州大学人文学部准教授を経て、2012年より東京大学大学院人文社会系研究科准教授。研究分野は文化社会学、都市・地域社会学、社会調査史。主な著書に『〈住宅〉の歴史社会学』新曜社(2008)、『福祉社会の価値意識』共著、東京大学出版会(2006)、『文化の社会学』共著、有斐閣(2007)、『ハウジングと福祉国家』新曜社(訳書2014)。

木村 至聖

甲南女子大学人間科学部 准教授

1981年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期過程研究指導認定退学。日本学術振興会特別研究員等を経て、現職。2011年 京都大学にて博士(文学)取得。専門は文化社会学、地域社会学。主な著書に、『産業遺産の記憶と表象』京都大学学術出版会(2014)、『ポピュラー文化ミュージアム』共著、ミネルヴァ書房(2013)、『無印都市の社会学』共著、法律文化社(2013)、『戦争社会学ブックガイド』共著、創元社(2012)。

後藤 治

工学院大学建築学部建築デザイン学科 教授・常務理事

1960年東京都生まれ。1984年東京大学工学部建築学科卒業。1988年東京大学大学院工学研究科博士課程中退。1988年文化庁文化財保護部建造物課。1999年工学院大学工学部建築都市デザイン学科助教授。2005年同教授、2011年より現職。博士(工学)、一級建築士。主な著書に、『食と建築土木』共著、LIXIL出版(2013)、『それでも「木密」に住み続けたい!』共著、彰国社(2009)、『都市の記憶を失う前に』共著、白揚社(2008)、『日本建築史』共立出版(2003)など。

椎原 晶子

晶地域文化研究所 代表

神奈川県生。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業、同大学院環境造形デザイン専攻修士課程修了、同博士課程単位取得退学。1989年まちづくりグループ「谷中学校」設立に参加、同年より(株)山手総合計画研究所勤務の後、2000年より東京藝術大学大学院美術研究科保存修復(建造物)非常勤講師(～2006)。歴史的建物の再生を核にしたまちづくりに取り組む。特定非営利活動法人たいとう歴史都市研究会副理事長、地域プランナー。著書に『景観再考』(共著・丸善)、『谷中・カヤバ珈琲店の復活』「すまいろん」2010年秋号、『路地からのまちづくり』・『新・町並み時代』(共著、学芸出版社)など。

光井 渉

東京藝術大学美術学部 教授

1963年広島県生まれ。1987年東京大学工学部建築学科卒業。1989年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。1991年東京大学大学院工学系研究科中退/文化庁文化財保護部文部技官。1996年神戸芸術工科大学環境デザイン学科専任講師、1999年神戸芸術工科大学環境デザイン学科助教授、2000年東京藝術大学美術学部助教授を経て、2014年より現職。主な著書に、『建築と都市の歴史(カラー版)』共著、井上書院(2013)、『都市と寺社境内(日本の美術 No.528)』ぎょうせい(2010)、『近世寺社境内とその建築』中央公論美術出版(2001)、『中国地方の住まい』INAX(1994)、『江戸時代の寺院と神社』共著、ぎょうせい(1994)など。

■申込方法

住総研 HP (http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusokensympo_42.html)

または、下記にご記入の上、FAXでお申し込みください。

■申込締切 7月13日(月) 定員150名(先着順)

■お問い合わせ

一般財団法人住総研

156-0055 東京都世田谷区船橋 4-29-8

TEL:03-3484-5381/FAX:03-3484-5794

e-mail:sympo@jusoken.or.jp

このシンポジウムは継続職能研修(建築士会 CPD) 認定プログラム(3単位申請中)

今年度住総研では「受け継がれる住まい」を重点テーマとし、様々な活動を行っています。研究助成のほか、住総研シンポジウムの開催に加え、当財団図書室でも関連資料を揃えております。当財団ホームページにて関連資料リストを掲載しておりますのでご覧ください。

■会場：学生会館 210 (2階)



都営三田線
都営新宿線
メトロ半蔵門線
神保町駅 A9 出口
徒歩1分

参加申込み

締切 7月13日(月)

お名前(ふりがな)

ご所属(□一般 □学生)

ご連絡先(□ご所属 □ご自宅)

(〒 -)

e-mail アドレス

TEL

FAX

住総研 FAX : 03-3484-5794